

第3回豊岡市観光地経営のあり方検討委員会 次第

日時：2024年2月27日（火）10時00分～

場所：豊岡市役所本庁舎6階 会議室6-1、6-2

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

今後の観光地経営に必要となるアクション等について

4 その他

次回検討委員会 _____月 _____日（_____） _____：_____～

5 閉 会

第3回 豊岡市観光地経営のあり方検討委員会

2024年2月27日(火) 10:00～
豊岡市役所本庁舎 会議室6-1、6-2



Visit Kinosaki

豊岡市

Toyooka City



検討スケジュール・内容について



検討スケジュール・内容

月	11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
検討委員会		第1回 11/21 ★						第2回 1/23 ★			第3回 2/27 ★				第4回 3/27 ★

回	日程	内容
第1回	11月21日(火)	観光地経営における課題、検討の方向性に関する意見聴取
第2回	1月23日(火)	観光地経営の方向性、アクションに関する意見聴取
第3回	2月27日(火)	アクションに関する意見聴取
第4回	3月27日(水)	アクションプラン案に関する意見聴取 ※予定

※検討状況によっては、追加で委員会開催をお願いする場合があります。



論 点

今後の観光地経営に必要となるアクション等について

- ✓ 前回までの意見を基にして作成した今後の観光地経営に必要と思われるアクション等に関して意見ををお願いしたい。
- ▶ 本市における観光の現状を踏まえた「大交流ビジョンの実現に向けたアクションプラン」としてまとめたい



大交流を進める3つの視点

- 豊岡の観光産業は、地域外からの消費を生み出して地域内に幅広く還流させて市全体を潤す基盤産業。
- 世界的に成長市場である観光需要を豊岡市内に取り込むことで、さらなる発展が見込まれる。
- これらを実現するためには次の3つの視点が重要である。

※

- ① **市民**が「豊岡のローカル」に誇りを持ち、市民同士の交流が盛んにおこなわれ、暮らしを楽しみ、豊かになっている状態を目指す。
- ② **観光客**のみならず、世界が豊岡のローカルに憧れ、共感して訪れたい・暮らしたい状態を目指す。
- ③ **市内の幅広い産業**が、豊岡のローカルを活用した商品やサービスを世界に提供している状態を目指す。

※豊岡のローカル：豊岡の歴史や風土などに根ざした環境や文化、また、ライフスタイルなど

アクションによって実現したい姿（大交流ビジョンの目指すべき姿）



新たな「観光」の捉え方

- これまでの観光は、物見遊山的で観光客と一部の宿泊・飲食サービス事業者だけのものとして狭く捉えられていた。
- **市民自身が市内の観光を楽しんだり、市民の日常こそが観光資源になりうること、観光の振興が市民生活の豊かさの向上につながる**ことなど、市民という視点が弱かった。
- 豊岡のローカルを核として、市民、多様な訪問者、広義の観光産業が相互に作用しながら**地域全体にイノベーションが起きている**状態を目指すべきである。

従来の「観光」の捉え方



新たな「観光」の捉え方



※1 多様な訪問者の多様とは：訪問の目的、訪問者の属性（年齢・性別・国籍・障害の有無など）を限らない
※2 広義の観光産業とは：従来の観光業のほか、豊岡への訪問者を相手とした農林水産業や靴産業など

アクションによって実現したい姿（大交流ビジョンの目指すべき姿）



取り組み方針

- 1 豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルを磨く
- 2 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む
（宿泊客数の増加、延泊の促進、消費額単価の拡大）
- 3 国内旅行では、縮小する関西圏市場への依存から脱却し、新規市場を開拓する
- 4 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する
- 5 専門職大学との連携により人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する
- 6 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する

これまでの議論と大交流ビジョンとの整合性



目指すべき姿の全体像

小さな世界都市 Local & Global City

大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きている

大交流

豊岡固有のモノやコトの価値に新しい工夫が加わり、相互につながり、活用されている

市民 (Community) の状態

市民が「豊岡のローカル」に誇りを持ち、市民同士の交流が盛んにおこなわれ、暮らしを楽しみ、豊かになっている

産業 (Industry) の状態

市内の幅広い産業が、「豊岡のローカル」を活用した商品やサービスを世界に提供している

来訪者 (Visitor) の状態

観光客のみならず、世界が「豊岡のローカル」に憧れ、共感し、訪れたり暮らしたりしている

解決すべき課題

- ① 市民が豊岡観光を楽しんでいない
- ② 市民全員で来訪者を迎え入れる土壌ができていない
- ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない

+

- ① 幅広い産業が観光に関わっていない
- ② 地消地産が進まない、ローカルを活用できていない
- ③ 観光産業の働き手の確保や事業承継が困難になってきている

+

- ① 豊岡ブランドが知られていない
- ② 市内の観光地が点在しており回遊できていない
- ③ 「豊岡のローカル」を満喫できていない

掛け合わせる対応策

- ① すべての人が観光を楽しめる環境づくり
- ② 観光コミュニケーションの推進
- ③ 市民生活の向上と観光振興の調和

×

- ① 産業間の協業や起業支援
- ② 生産者と観光事業者の連携や高付加価値化
- ③ 閑散期の需要喚起と雇用環境の改善

×

- ① 観光地マーケティングの強化
- ② 地域間連携と二次交通の確保、充実
- ③ ここにしかない豊岡体験の発見と提供



3つの視点

- ① 資源保護
- ② 役割
- ③ 推進体制

アクションの検討の観点

アクションによって、課題が解決に向かい、観光地の質が高まり、観光地の経営がまちづくりと有機的に結び結びつくことを目指す。

- 実現可能性はあるか？
- 実施するタイミングは？（短期的、中期的）
- アクションに必要なとなるリソース（人、素材、資金等）はあるか？

資源保護に関するアクション



資源保護

観光に関わる人材の育成・確保

- 安定した雇用を創出するために、観光需要を平準化するとともに、雇用環境を改善する。
- 豊岡の観光に関わりたいと思う人材（域外の人材、外国人を含む）との積極的なコミュニケーションとフォローアップ（人材教育・生活支援等）を行う仕組みを検討する。
- 季節、産業、地域ごとの労働力のシェアを促進する。
- 地域の魅力を伝える観光ガイドを育成する。

自然資源、文化資源、景観、観光施設等の保護・保全

- 投資する資源、投資規模、タイミング、財源、優先順位等を決定するための仕組みを構築する。
- 豊岡の魅力や取組みへの「共感」から「貢献」への動きを促進する。

財源の確保

- 人材の育成・確保、資源の保護・保全など、持続可能な観光地を運営していくための財源（既存・新規）の確保を検討する。



- **雇用の確保 ▶ 海外人材(語学指導、住居手配 ▶ 市営住宅、空き家の活用)、短期アルバイトの確保(市営住宅の活用)**
- **事業承継(地域外の経営による弊害 ▶ 観光地マネジメントの必要性)**
- **観光ガイドの有償化、質の向上**
- **地域単位の観光施策の必要性**
- **地域住民との協働(住民の観光への関心向上、観光の利益を地域に還元等)**
- **専門職大学、域外大学の学生の活用**
- **複数の地域が連携して一体化したプログラムの造成と運用**

役割に関するアクション



役割分担の明確化

役割

- 観光事業者や地域住民の声など、地域のニーズや観光を取り巻く状況を把握する。
- 地域における観光の先導役として機能を強化する。
- 地域の多様なステークホルダーとの連携を強化する。
- 地域の観光に対するコンサルティング機能を強化する。
- 季節性に依存しない観光コンテンツ（魅力）を開発する。

地域（観光協会、観光事業者、地域住民）

- 事業者等からの相談対応、域内連携強化（コミュニティ、商工会等）
- 地域観光戦略の立案、運営
- 地域住民等との交流、連携機会の創出
- 観光素材の掘り起し、磨き上げ

DMO (TTI)

- 国内外の観光動態、地域(観光地)ニーズの把握
- 地域観光戦略の立案支援、マネジメント
- 地域が連携した観光施策の立案と運用
- 観光データの分析と予測、地域等への共有
- 観光関連人材のための各種研修の実施

行政（市）

- 国内外からの観光関連人材の確保に向けた大学、NPO等との連携(語学教育、人材育成)
- 教育、雇用、事業承継、環境問題、交通施策等との庁内連携
- 国県補助事業等の活用
- 観光振興のための安定財源の確保

推進体制に関するアクション



実施する施策の決め方

- 教育、雇用、交通政策、環境問題等、観光の枠を超えた市の横断的な取組みを可能とする仕組みを構築する。
- 持続可能な観光地マネジメントの目線で、事業の実施や評価を行う仕組みを構築する。

施策の実施方法

- 地域の観光をマネジメントする人材、地域・産業間連携の窓口となる人材を地域に配置する。
- 地域のビジョン、目指す姿、やりたいこと、事業推進に必要な予算等を明確化する。
- 持続可能な観光地マネジメントの目線で、事業の実施や評価を行う仕組みを構築する。

組織・予算のあり方

- 地域の観光をマネジメントする人材、地域・産業間連携の窓口となる人材を地域に配置する。
- 教育、雇用、交通政策、環境問題等、観光の枠を超えた市の横断的な取組みを可能とする仕組みを構築する。



- **観光協会とTTIの一部機能の統合(人材交流、事務局機能の共有化)**
- **市役所の部署横断的(教育、雇用、事業継承、環境問題、交通施策)な庁内タスクフォースの設置と運用**
- **地域観光戦略の策定と運用**
- **地域観光戦略に基づく事業や予算の決定、実施する仕組みの構築**
- **事業の効果検証と評価の仕組みの構築**

推進体制



今後の観光地経営に必要となるアクション

目標 1 : 観光地マネジメント力の強化

TTIの観光地マネジメントにより、地域観光戦略に基づく観光地経営を実現する

- TTIによる地域観光の運営支援
- 観光協会とTTIの一部機能統合
- 地域観光戦略の策定、運用、評価
- 市民が楽しめる観光の開発と協働による観光振興の仕組みづくり

目標 2 : 観光関連人材の確保と育成

事業承継人材及び観光地の運営を支える人材を確保、育成することにより、観光地経営を実現する

- 事業承継、労働力確保に向けた取組み
 - ▶ 移住支援 ▶ 海外からの労働力確保 ▶ 短期人材確保
- 観光ガイドの役割強化 ▶ 再教育、有料化
- 専門職大学、NPOとの教育連携 ▶ 次世代人材確保
- 外国人労働者のための語学研修

目標 3 : 分野横断による取組み

庁内及び関連団体横断による観光地経営を実現する

- 教育、雇用、事業承継、環境問題、交通施策等に関するタスクフォースの設置と施策や予算の決定、事業実施、評価のための仕組みづくり

目標 4 : 観光地経営のための安定財源の確保と執行

地域観光戦略に必要な財源を確保し、戦略に基づいた観光地経営を実現する

- 事業等の見直しを含む既存財源の有効活用
- 市全域の共通課題の解決のための新たな財源の検討
- 地域観光戦略に基づく予算配分と執行

次回検討委員会でお願したいこと



大交流ビジョンの実現に向けたアクションプラン案の確認

目標 1 : 観光地マネジメント力の強化

実行するアクション	実施主体				スケジュール（実施時期）		実行時の留意点等
	市民	協会	TTI	市	短期(1~2年)	中期(3~5年)	
●●●●を行う	○	◎	○		第1期2年目		中心となる人材
●●●●を行う			○	◎		第2期1年目	

目標 2 : 観光関連人材の確保と育成

実行するアクション	実施主体				スケジュール（実施時期）		実行時の留意点等
	市民	協会	TTI	市	短期(1~2年)	中期(3~5年)	
●●●●を行う	◎	○				第2期2年目	予算
●●●●を行う		○	◎	○	第1期1年目		